

## II 会場の準備状況

西村 進 (会場小委員長・京都大学)  
Susumu NISHIMURA

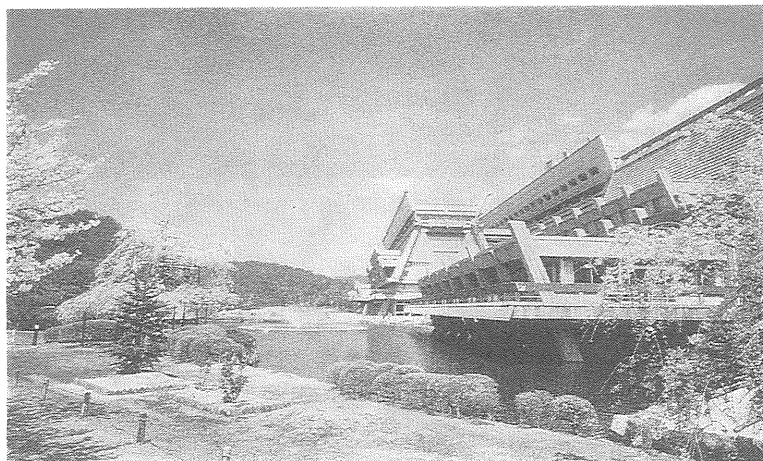


写真1 国立京都国際会議館本館

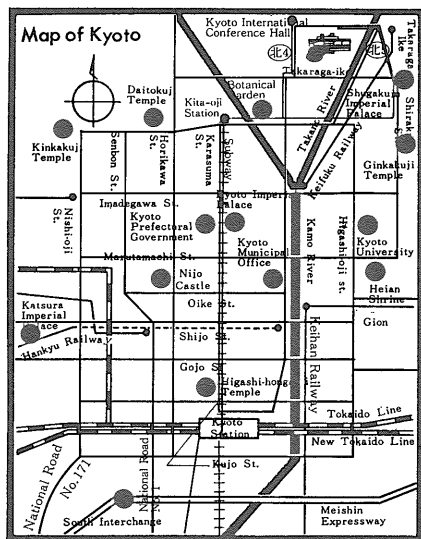
IGC 日本開催のための準備委員会が組織委員会に移行を決定した際 (1988年11月18日, 第8回準備委員会) 会場の決定が緊急課題のひとつとされ, この時点での候補地として横浜と京都が浮上した。

京都側では種々の検討の結果, 会場を引き受ける態勢をかため, 京都国際会議場を中心として1992年8月24日 (月) から9月3日 (木) で引き受ける用意のあることを組織委員長に報告した。組織委員長は4月15日付けの書簡で, 第29回 IGC を京都国際会議場にて開くことを各組織委員にはかり, 5月17日, 京都開催を決定した。会場小委員長は京都大学理学部西村進が引き受けることとなった。早速, 京都では有志のものが, 会場の下見, ホテルの確保に乗り出した。

1989年6月16日, 米国で開かれた第28回 IGC の運営委員会 (Steering Committee) において第29回の日本 (京都) での開催が決定的となった。第28回 IGC の展示場で, 第29回 IGC 組織委員会の展示が, 地質調査所の展示と並んでなされた。

1989年9月21日第3回組織委員会で, 京都国際会議場の使用準備状況を報告した。国立京都国際会議場は開館が1966年で経験豊かなコンベンション・センターである。京都市街地から小さな山を越えた岩倉の盆地の南端に位置し, 宝ヶ池畔の緑と静かな環境に恵まれた所で, 敷地は広く, 設備の行きとどいた会館である。会期中の京都は残暑のきびしい時ではあるが, 台風の襲来がなければ天候は安定していることが多い。

1989年12月号



第2図 京都の交通

大会議場は, 最大2,300人収容でき, 開・閉会式と特別シンポジウムに使う予定である。この他に, 300人以上収容できる会議場を始め90人以上収容できる部屋が16室, 50人以上収容できる部屋が4~5室準備できる。別にポスター・セッションには3室, 展示場には別棟のイベント・ホール及び駐車場の一部が使える。宴会場 (食堂) は2室あり, ロビーは広く天気良ければ日本庭園が使える。この日本庭園には茶室も設備されていて, 茶

会(裏千家)、生け花教室も開くことができる。

交通の便は、1990年10月には地下鉄が北山までのびて、徒歩20分、車5分、京福電鉄も京阪電車と出町で乗り継ぎでき、宝ヶ池から徒歩20分、また市バス⑥が京都駅から会議場まで運行されている。ダウン・タウンまでは車で30分以内で行ける所にある。

現在、京阪神在住のもので会場小委員会を開き、種々の役割分担を決めつつあり、受け入れ態勢ができてきている。

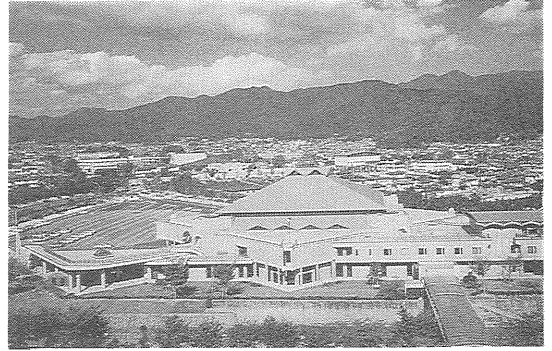


写真2 国立京都国際会館イベントホール

### III 科学プログラム

IGC 科学プログラム小委員会では、総勢96名にのぼる委員の方々の討議を基に科学プログラムの案をねっている。11月中にファースト・サーキュラーに載せる案を作成する予定であるが、現在までのところ考えられている案は、スペシャルシンポジウム、重複分野シンポジウム、単分野シンポジウムの3分野の構成であり、それぞれ以下のようなセクションから成っている。

なお単分野シンポジウムは、現在検討中であるが、ファースト・サーキュラーにはその案が載せられる。

#### 29th IGC Scientific Programme

##### Special Symposia A History of the Earth with Particular Emphasis on the Evolution of Island Arcs and Active Continental Margins

1. Early history of the solar system and origin of the Earth.
2. Early history of the Earth: Birth of continents, oceans, and atmosphere.
3. Dynamics and evolution of the mantle and core.
4. Evolution of crusts in continental and oceanic regions.
5. Evolution of island arcs and active continental margins.
6. Origin of life and evolution of the biosphere.

##### Special Symposia B Frontiers of Geosciences for Human Survival

久城育夫 (科学プログラム小委員長・東京大学)  
Ikuro KUSHIRO

1. Global climatic change and future environment.
2. Geological prediction of natural hazards and environmental protection.
3. Mineral and energy resources in the 21st Century.
4. Geological disposal of radioactive waste.
5. Human survival in 21st Century: A panel discussion.

##### Special Symposia C Summary, Highlight, and Progress of International Geoscience Projects

1. Summary and Highlight of ODP.
2. Summary and Highlight of ILP.
3. Summary and Highlight of KAICO Project.
4. Progress of IGBP.
5. Progress of Continental Deep-Drilling Projects.
6. Progress of IDNDR.
7. Summary and Highlight of STARMER Project.
8. Circum Pacific Map Project.
9. IGCP ?

##### Lecture Series

1. Geology of Japan.
2. Geology in big constructions in Japan: Case studies.

##### Interdisciplinary Symposia

\* Denotes proposers. Numbers in [ ] indicate sections concerned. Sp: Special Symposia T: Tentative